

自己実現への道

第 82 回 ー 第 6 章 「創意と忍耐の前に『不運』はない」(その 1)ー

★捨てなければ得られない

植木の職人が庭木や灌木を刈り込むのを見ていて、とても乱暴に思えて可哀想に思える。果樹の剪定作業をしている農夫に、「この枝はいっぱい実がついた枝だから切らないで」と嘆願すると農夫は「春になると新しい枝が出てきて、その枝に前回よりもっと上等な実がつくんだ」と教えてくれた。農夫の言ったとおりだった。立派な実をつけた枝を切り落として、まだ芽を出していない新枝に期待をかけるという栽培方法を開発するまでには、大変な努力と経験の積み重ねが必要だったのである。

また、良い収穫を得るためには枯れた枝を切り落とすことも怠ってはならない。あなたの在庫目録の中には、廃れたものが混ざっていて、排除する必要があるのではないかと？ 未来テクノロジーに備えて、あなた自身を再教育しておく必要があるのでは？

いつも成長しつづけなければならない ー 成長が止まると死が始まる。

実り多い収穫を望むなら、思い切った刈り込みが必要である。

成功を信じて自分を刈り込むのである。

古きものには別れを告げ、感謝をこめて埋葬し、若々しい力にあふれ、訪れようとしている新しい友を喜んで迎え入れる勇気を持ちたいものである。

「古くなったもの、不安になったものは思い切って捨て去り、全心を新しい方向へ投入せよ。そこに成功への一つの秘訣がある」

★中断すれば必ず目減りする ー 常に進化し続けることが重要ー

大学の教育を終了して卒業証書をポケットに押し込んだ青年の人生はこれで終わったのではない。彼は新しいステップに踏み込んで行かねばならない。教育の効果を最大限に生かすため、青年は社会での挑戦に取り組まなければならない。

人は成功に甘んじてのんびりとなりやすい。収穫の喜びと高収入に浮かれて、将来の拡大発展を目指す志向を中断してはならない。農夫は穀物を収穫しながら、すでに翌年に備えて新しい耕作計画を練っているのである。

「現実の業績(is)をいくら積み重ねても、理想の業績(ought)には追いつかない」(ビクター・フランクルの言葉)
「新しい目標がない」ということは、ある「目標を達成しない」こと以上に危険な問題である
「人生は進歩か後退かのどちらかである。留まれば現状維持ではなく後退する。成果を勝ち取っても油断するな。ひとつの成果を勝ち取ったら、すぐに次の目標へ向かって挑まなければならない」

<MIKO>

参考文献：Tough Minded Faith For Tender Hearted People by Robert H Schuller より